

「船舶アスベスト処理セミナー」の開催結果 (バリシップ 2011 併催イベント)

1. 日時及び場所

日時：2011年 5 月 18 日 (水) 14:00~17:00
場所：財団法人 今治地域地場産業振興センター (<http://izc.or.jp/top-center.htm>)
〒794-0042 愛媛県今治市旭町二丁目3番地5
参加者：造船、海運、製造業者等の海事関係者を中心に約100名

2. セミナーで講演/議論されたトピック

主催者挨拶 財団法人日本船舶技術研究協会 理事長 愛川 展功



愛川 理事長

来賓挨拶 国土交通省 海事局 船舶産業課 国際業務室長 加藤 光一 氏
厚生労働省 愛媛労働局 労働基準部長 永野 和則 氏



加藤 国際業務室長



永野 労働基準部長

テーマ1： アスベスト処理マニュアル（改訂）の策定について

財団法人日本船舶技術研究協会 国際企画グループ長 石原 彰

<トピック>

財団法人日本船舶技術研究協会の活動（基準・規格・調査研究・海外情報収集・フロシオ-インベントリ事業）について紹介されました。また、2011年3月に作成した「船舶における適正なアスベストの取扱いに関するマニュアル（改訂版）」の検討スキームについて説明をされました。



石原 国際企画グループ長

テーマ2： 改正石綿障害予防規則 及び ISO30007「船舶リサイクルにおけるアスベスト飛散と暴露防止対策」の概要について

講師： 神山 宣彦 氏

東洋大学 経済学部 元教授（現大学院経済学研究科客員教授）
（当協会 シブプリサイクル委員会/ISO作成WG（ISO30007）主査）

<トピック>

国内造船業におけるアスベストの使用経緯の紹介、2009年5月に新条約「2009年の船舶の安全かつ環境上適正な再生利用のための香港国際条約（仮称）」の採択に至る背景となりました。主要解撤国であるインド、バングラディッシュ等における労働環境の劣悪な現状が紹介されました。

これら主要解撤国への作業マニュアルの普及、そして国内労働衛生環境の安全性の向上を目的に、2005年7月制定の石綿障害予防規則を加味のうえ、2006年10月に「船舶における適正なアスベストの取扱いに関するマニュアル



神山 宣彦 講師

（第1版）」の作成を実施したことが紹介されました。今後の改訂版マニュアルでは、その後の石綿障害予防規則の改正、そして、2006年10月版マニュアルを基礎に日本がその作成を主導した国際規格 ISO30007 が2010年12月に制定されたことを受け、これらを加味して作成が行われたことを説明されました。

テーマ3： アスベストの取扱い作業について

講師： 今川 輝男 氏（株式会社重松製作所 営業本部 企画室長）

<トピック>

2011年3月に作成した「船舶における適正なアスベストの取扱いに関するマニュアル（改訂版）」の第3章、第4章、第5章について説明が行われました。

アスベスト除去につく作業員への事前の特別教育が必須であること、飛散をし易い順よりアスベストの作業グレードを3段階に区分し手順を示していること、作業にあたってはJIS（日本工業規格）に基づく保護具を準備するだけでなく、正しく使用することの重要性が実演を通じて説明されました。



今川 輝男 講師

また、グレード1の作業における電動ファン付き呼吸用保護具の使用や、船舶においては特に有効な工法となることが想定される、作業範囲が限定的な場合の特殊工法であるグローブバッグ工法（全体隔離措置と同等以上の効果を有する措置）、そして、船舶に多いケースと想定される断熱配管にアスベストが使用されていた場合の除去方法などが新たに追加され、より実作業に適したマニュアルになったことが説明されました。

テーマ4： アスベストの取扱い事例の紹介について

講師： 朝賀 光 氏（社団法人日本石綿協会 技術参与）

<トピック>

陸上（建築）におけるアスベストの取扱い事例について紹介が行われました。実際のアスベスト除去作業の一貫した流れが説明され、石綿有無の事前調査の手順、レベル（船舶ではグレードに相当）毎の解体フロー、隔離養生方法（レベル1）、集じん・排気装置（船舶では負圧・除じん装置に相当）の性能及び設置方法、セキュリティゾーンの設置・使用方法、除去作業手順（飛散抑制剤などにより湿潤化したうえで作業を実施すること、ワイヤ掛け時が最も発じんが大きいこと）、作業終了後の実施事項、廃棄物の集積、廃棄物処理などの詳細についてが説明されました。



朝賀 光 講師



船舶アスベスト処理セミナー講演風景

（了）